



免疫機能の低下した方へのワクチンの追加接種 (免疫不全)

免疫機能が低下している人は、正常な免疫機能を持つ人に比べ、COVID-19に感染する可能性が高くなります。また、そのような方が感染した場合、深刻な病気になり、同居する方々にウイルスを拡散する可能性が高くなります。

免疫不全の方の場合、ファイザーまたはモデルナ製ワクチンの2回目の接種を受けても、十分な防御力を得られていない人がいるという研究結果が出ています。

このため、CDC(アメリカ疾病予防管理センター)は、中等度から重度の免疫不全の方に追加のワクチン接種を受けることを推奨しています。これには、以下のような方が含まれます。

- 腫瘍または血液の癌に対して積極的な癌治療を受けている
- 臓器移植を受け、免疫抑制剤を服用している
- 過去2年以内に幹細胞移植を受けた、または免疫抑制剤を服用している
- 中等度または重度の原発性免疫不全症（ディジョージ症候群、ウイスコット・アルドリッチ症候群など）に罹患している
- 進行性または未治療のHIV感染者である
- 免疫応答を抑制する可能性のある高用量のステロイド剤または他の薬剤による積極的な治療を受けている



COVID-19ワクチンの追加接種について医師にご相談ください。3回目の接種が必要な場合は、現在の治療計画に基づいて最適な接種時期について問い合わせてください。これは、免疫抑制治療を開始または再開しようとしている場合に特に重要です。

知っておくべきこと：



- mRNAワクチン（ファイザーとモデルナ製）の場合、2回目の接種後28日以上空けて3回目の接種を受けてください。
- 可能であれば、同じ種類のワクチンの接種を受けてください。例えば、ファイザー製ワクチンの接種を受けた場合は、3回目の接種でもファイザー製のワクチンの接種を受けてください。
- 現在、ジョンソン&ジョンソンワクチンの接種を受けた人には、追加接種は推奨されていません。免疫不全の個人に対するこのワクチンの有効性に関するデータはFDAによりまだ評価中です。